

二本松税務署長賞

私が税について思うこと

大玉村立大玉中学校

三年 青山 望

私が『税』というものを初めて意識したのは小学生の時でした。

その時までは、自分が消費税というものを払っていても、偉い人達がテレビで税について話していても、「自分にはまだ早いだろう」と思っていました。

けれど、総合の授業で税のビデオを見て、子供の私には関係ないのではなく、子供の私だからこそ税について知っておかなければならないのではないかと考えたのです。

ビデオの内容は「もしも税がなかったら」というもので、主人公の姉弟がそんな世界にトリップをする話です。

その世界の中はとてもじゃないけれど住み心地の良い所とは言えないほど荒んでいて、道路の整備もなされていない、交通機関の使用もままならない、私がいるこの世界とは全

く違うような所でした。

例えば病院。病気などの治療費・薬代は何倍にも膨れ、普通の家庭では払うことができない額にまで達しています。

商店街のシャッターはほとんどが昼でも閉まったままで、開いている店を見つけたとしても商品には高過ぎて手が出せない程です。そして何より私が驚いたのは、教育の場である学校です。

中学生一人に年間にかかる教育費は凡そ九十五万二千円だそうです。公立の学校で使われている備品各々がさらに加算されたとしたら、一体何人の子供達が学校に通うことができるのでしょうか。

私達の安心も安全も税があるからこそ保障され、ほとんどの社会運営のための費用が税によってまかなわれています。

税とは言っても、所得税やたばこ税などの国税の他、県民税や不動産取得税などの県税、固定資産税や軽自動車税などの市町村税など種類は様々で、いちいち払うことはとても面

倒なことです。

ニュースなどで『脱税』などと聞くことが時々あります。『税』を良く知らなかった頃の私は、「別に一人くらい払わなくなつて」や、「所得税なんていらんじゃないか」などとばかり思っていました。

けれど、私達が今までこうして当たり前に勉強して、当たり前前に整備された道路を通ってきたのは、その時、大人達が働いて税を払ってくれたからこそです。

『脱税』をした人だって、きっと幼い頃から税によって支えられ、年を取って寝たきりになつてもまだ税のおかげで生活ができているはずなのではないでしょうか。

私は、社会にいる人が皆与えられてきたものと、与えられているものについてもっと知ること、国がその税を全て正しく使うことが大切であると思うと同時に、それが社会をより良くしていく上で最も必要不可欠なことなのではないだろうかと考えます。

